

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年9月22日(月)～平成26年9月28日(日)【平成26年第39週】の感染症発生状況

第39週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)ヘルパンギーナでした。

感染性胃腸炎は定点当たり4.00人と前週(4.70)から患者報告数は減少し、例年とほぼ同じレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり0.94人と前週(0.70)から患者報告数はほぼ横ばいで、例年とほぼ同じレベルで推移しています。

ヘルパンギーナは定点当たり0.85人と前週(0.88)から患者報告数はほぼ横ばいで、例年とほぼ同じレベルで推移しています。



高齢者インフルエンザ予防接種事業が始まります！

高齢者の方はインフルエンザ予防接種を公費負担で受けられます。(一部自己負担あり)

対象となる方(次の3つの条件を全て満たす方)

- 川崎市内にお住まいの方
- 接種日に満65歳以上の方、若しくは満60～64歳で次の※に該当する方
※心臓病、腎臓病、呼吸器の機能障害又はHIVによる免疫機能障害のある方(障害1級程度)
- 接種を受けようとするご本人が接種を希望していること

実施期間と回数

平成26年10月1日～12月31日の間に1回

接種を受けられる場所

市が指定した市内の協力医療機関(約600施設)
※お近くの医療機関又は保健福祉センター(保健所)にお問い合わせください。

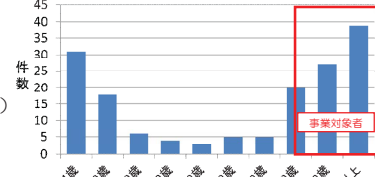
自己負担金

2,000円(接種を受けた医療機関にお支払いください)

ただし、以下のいずれかに該当する方は接種費用が無料になります。接種を受ける前にお問い合わせください。

- ①生活保護世帯に属する方
- ②市・県民税非課税世帯(世帯全員が非課税)に属する方
- ③中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律に基づく支給給付を受けている方

川崎市内基幹定点病院においてインフルエンザで入院した患者数(平成23年度以降)



インフルエンザ予防接種は接種を受ける法律上の義務はありません。本事業に関するお問い合わせは、お近くの区役所保健福祉センター・地域保健福祉課までご連絡ください。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
(問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年9月29日(月)～平成26年10月5日(日)【平成26年第40週】の感染症発生状況

第40週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)ヘルパンギーナでした。

感染性胃腸炎は定点当たり4.30人と前週(4.00)から患者報告数はほぼ横ばいで、例年とほぼ同じレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.30人と前週(0.94)から患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。

ヘルパンギーナは定点当たり0.88人と前週(0.85)から患者報告数はほぼ横ばいですが、例年より高いレベルで推移しています。



水痘と高齢者の肺炎球菌感染症が定期予防接種になりました

水痘(みずぼうそう)予防接種

対象となる方

- 川崎市民で、接種日に1歳～3歳に至るまでの間にある方
 - 川崎市民で、接種日に3歳～5歳に至るまでの間にある方(経過措置対象者)
- 注)経過措置対象者の接種期限は、平成27年3月31日までです。

接種回数

3月以上の間隔において2回(経過措置対象者は1回)
※すでに水痘の予防接種を受けている場合には、公費で接種を受けられる回数異なります。

接種を受けられる場所

お近くの医療機関又は区役所保健福祉センター(保健所)・地域保健福祉課にお問い合わせください。
※市内約300施設の医療機関で受けることができます。

自己負担金

なし

高齢者の肺炎球菌感染症予防接種

対象となる方(次の条件を全て満たす方)

- 川崎市民の方
 - 過去に肺炎球菌ワクチンを接種したことがない方
 - 年度内に65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳となる方、または満60～64歳で次の※に該当する方
- ※心臓病、腎臓病、呼吸器の機能障害又はHIVによる免疫機能障害のある方(障害1級程度)
- 注)平成26年度に限り、101歳以上となる方も対象です。

接種回数

定期予防接種の対象年度中に1回

接種を受けられる場所

お近くの医療機関又は区役所保健福祉センター(保健所)・地域保健福祉課にお問い合わせください。
※市内約500施設の医療機関で受けることができます。

自己負担金

4,500円(接種を受けた医療機関にお支払いください)

ただし、以下のいずれかに該当する方は接種費用が無料になります。接種を受ける前にお問い合わせください。

- ①生活保護世帯に属する方
- ②市・県民税非課税世帯(世帯全員が非課税)に属する方
- ③中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律に基づく支給給付を受けている方

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
(問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年10月6日(月)～平成26年10月12日(日)【平成26年第41週】の感染症発生状況
 第41週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)ヘルパンギーナでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.39人と前週(4.30)からほぼ横ばいで、例年とほぼ同じレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.45人と前週(1.30)からほぼ横ばいですが、例年より高いレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は0.82人と前週(0.88)からほぼ横ばいですが、例年より高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の流行に注意が必要です！！

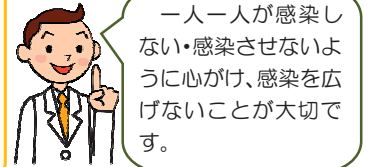
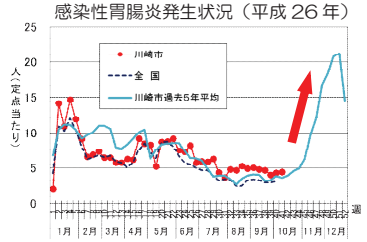
感染性胃腸炎は、ウイルスや細菌などが原因で、下痢や嘔吐などの症状が出る感染症です。例年11月頃から、ノロウイルスを原因とする感染性胃腸炎の患者報告数が急激に増加するため、予防対策を徹底するなど注意が必要です。

主な感染経路

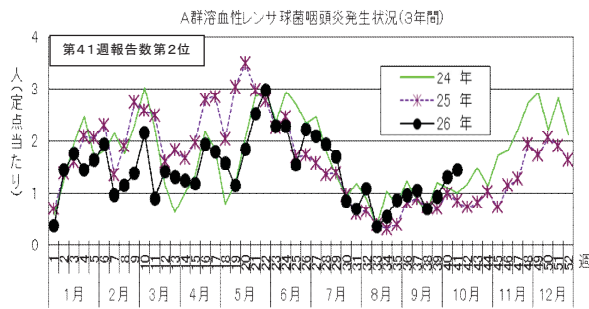
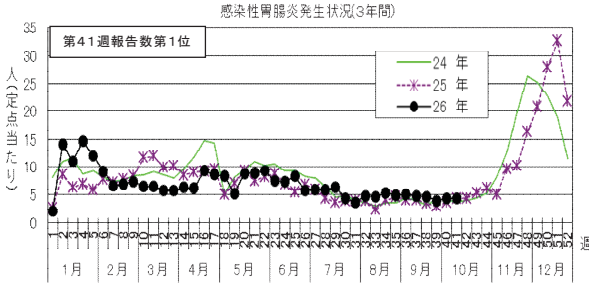
- ①患者のウイルスが大量に含まれる便や嘔吐物から人の手などを介して感染
※便や嘔吐物中のノロウイルスは乾燥すると容易に空中に漂い、これが口に入って感染することがあります。
- ②ウイルスに汚染された食品を食べることで感染

予防策

- ①手洗いを徹底するとともに、衣類や床などが便や嘔吐物に汚染された場合は、必要に応じて家庭用塩素系漂白剤(次亜塩素酸ナトリウム)で消毒しましょう。
- ②食品は中心部まで十分加熱(85～90℃で90秒以上)しましょう。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年10月13日(月)～平成26年10月19日(日)【平成26年第42週】の感染症発生状況
 第42週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)水痘でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.79人と前週(4.39)から減少し、例年とほぼ同じレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.88人と前週(1.45)から減少し、例年とほぼ同じレベルで推移しています。
 水痘の定点当たり患者報告数は0.61人と前週(0.70)から減少し、例年とほぼ同じレベルで推移しています。

「咳エチケット」守っていますか！？

これから冬に向けて、インフルエンザやRSウイルス感染症などの流行が予測されます。これらの感染症にかかった場合には、家庭や職場、公共の場での感染拡大を防ぐために、「咳エチケット」を実践しましょう。

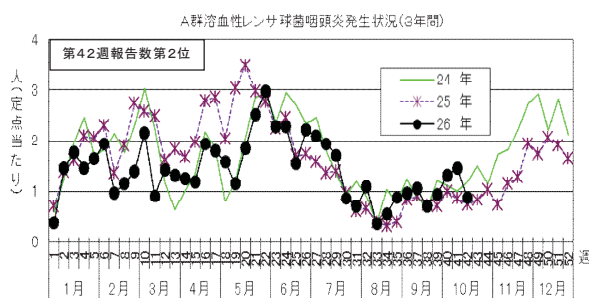
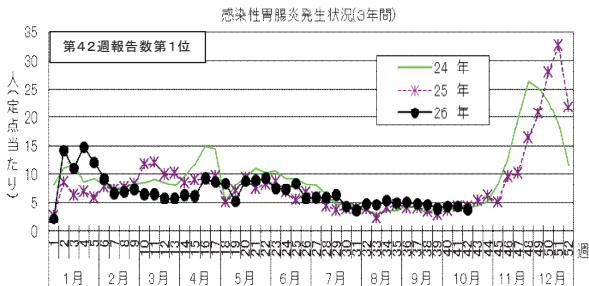
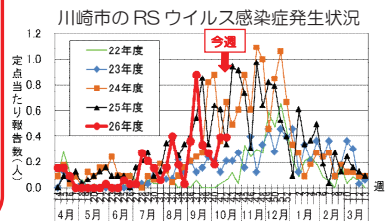
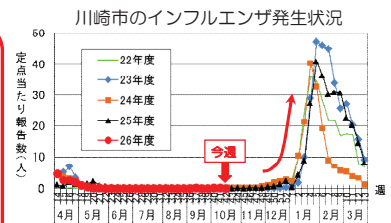
咳エチケットとは？

咳やくしゃみでウイルスが飛び散るのを防ぎ、他人にうつさないようにする感染拡大防止マナーのことです。



みんなで実践！～咳エチケット～

- 咳やくしゃみの際、ティッシュなどで口と鼻を押さえ、他人から顔をそむけ1m以上離れる。
- 鼻汁・痰(たん)などを含んだティッシュは、すぐに蓋付きのごみ箱に捨てる。
- 咳をしている人にマスクの着用を促す。
- マスクは説明書を読んで、正しく着用する。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

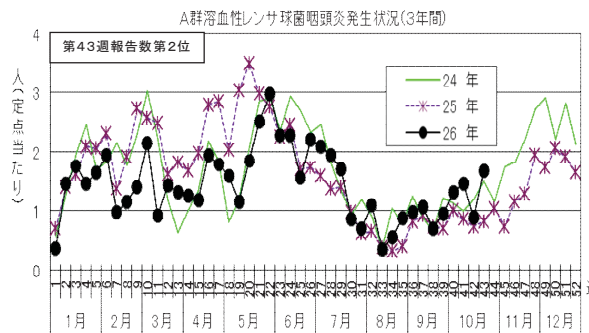
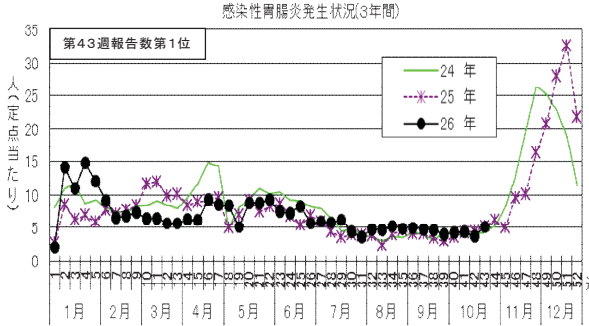


平成26年10月20日(月)～平成26年10月26日(日)【平成26年第43週】の感染症発生状況

第43週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)水痘でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.15人と前週(3.79)から増加しましたが、例年とほぼ同じレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.67人と前週(0.88)からほぼ横ばいですが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



エボラ出血熱について

2014年3月以降、西アフリカでエボラ出血熱が流行しており、10月25日付けの世界保健機関(WHO)の情報では、疑い例を含む患者が10,141例、死亡例が4,922例報告されています。現在も、ギニア、リベリア、シエラレオネでは患者が発生しています。

～市民の皆様へのごお願い～

1か月以内に、**西アフリカのギニア・シエラレオネ・リベリア・コンゴ民主共和国**から帰国し、**38℃以上の発熱**がみられた場合には、自宅待機の上、お住まいの区の保健福祉センター(保健所)までご相談ください。

エボラ出血熱ってどんな病気？

感染経路

エボラウイルスに感染し、症状が出ている患者の体液等(血液、分泌物、吐物・排泄物)や患者の体液等に汚染された物質(注射針など)に十分な防護なしに触れた際、ウイルスが傷口や粘膜から侵入することで感染します。

潜伏期間：2～21日

症状

突然の発熱、頭痛、倦怠感、筋肉痛、咽頭痛等の後、嘔吐、下痢、胸部痛、出血(吐血、下血)等



エボラ出血熱は、インフルエンザのように容易に飛沫感染する可能性は非常に低く、患者の体液等に直接接触することで感染しますので、冷静な対応をお願いいたします。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
(問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

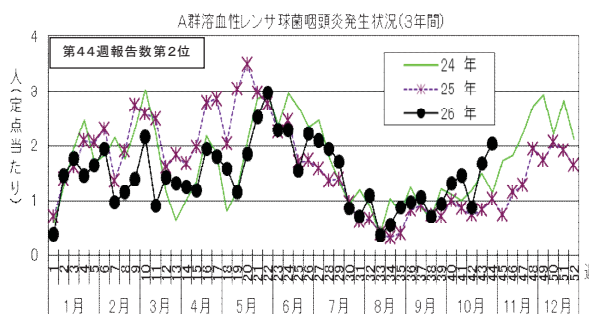
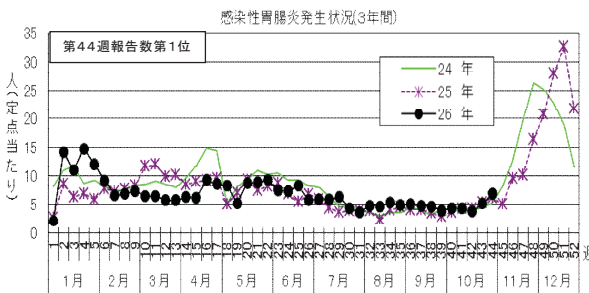


平成26年10月27日(月)～平成26年11月2日(日)【平成26年第44週】の感染症発生状況

第44週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)水痘でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.88人と前週(5.15)から増加しましたが、例年とほぼ同じレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.03人と前週(1.67)からほぼ横ばいですが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
水痘の定点当たり患者報告数は0.70人と前週(0.91)からほぼ横ばいで、例年とほぼ同じレベルで推移しています。

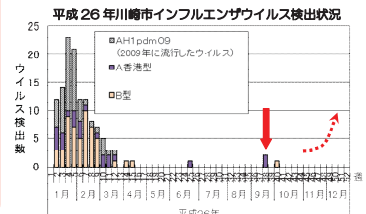
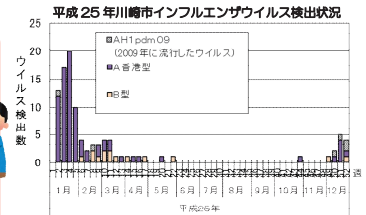


インフルエンザにご注意ください！

川崎市健康安全研究所では毎年インフルエンザウイルスの型別流行状況を調査しています。今年はずで、9月末からA香港型及びB型のインフルエンザウイルスが検出されており、例年より早く流行する可能性がありますので、注意が必要です。

～インフルエンザにかからないために～

- 流行前のワクチン接種**
予防接種を受けてから抵抗力がつくまでに2週間程度かかりますが、持続期間は約5か月間とされています。
- 飛沫感染対策としての咳エチケット**
- 外出後の手洗い等**
流水・石鹸による手洗いはウイルスを物理的に除去するために有効な方法です。
- 適度な湿度の保持**
加湿器などで適切な湿度(50～60%)を保ちましょう。
- 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取**
- 人混みや繁華街への外出を控える**



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
(問い合わせ先) 044-276-8250

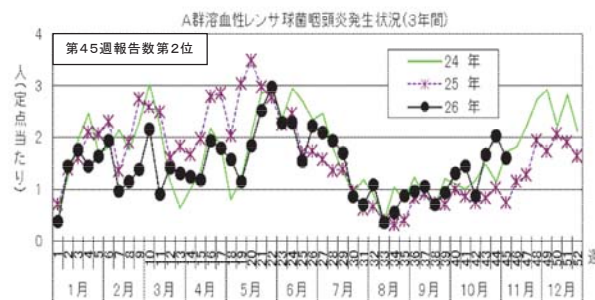
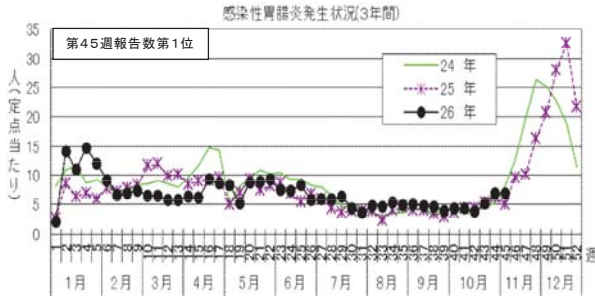
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年11月3日(月)～平成26年11月9日(日)【平成26年第45週】の感染症発生状況

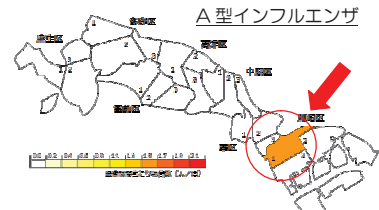
第45週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)水痘でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.85人と前週(6.88)からほぼ横ばいで、例年とほぼ同じレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.61人と前週(2.03)からほぼ横ばいで、例年とほぼ同じレベルで推移しています。
 水痘の定点当たり患者報告数は1.52人と前週(0.70)から増加しましたが、例年とほぼ同じレベルで推移しています。



インフルエンザ流行の兆し！！

今シーズン初めてインフルエンザによる学級閉鎖の報告がありました。また、川崎市感染症情報発信システムのリアルタイムサーベイランスでは、川崎市においてインフルエンザ患者報告数が増加しています。

A香港型及びB型のインフルエンザウイルスも9月末から検出されており、例年に比べて早く流行が始まる可能性があります。**予防接種**などの対策を早めにご検討ください。



今年度のワクチンはどの種類のインフルエンザに効果があるのですか？

今年度の季節性インフルエンザワクチンには、以下の3種類が含まれています。

- A/H1N1 亜型 (2009年以降の流行株)
 - A/H3N2 亜型 (いわゆるA香港型)*
 - B型
- *昨年度のワクチン株と異なります。

川崎市感染症情報発信システム (KIDSS) リアルタイムサーベイランス公開情報 (平成26年11月10日報告分)
 ※11月11日14:00時点
 URL: <https://kidss.city.kawasaki.jp/>

川崎市感染症情報発信システムでは、現在、A型及びB型インフルエンザの毎日の発生状況を公開しています。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

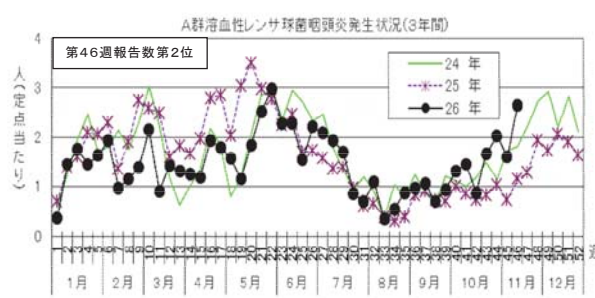
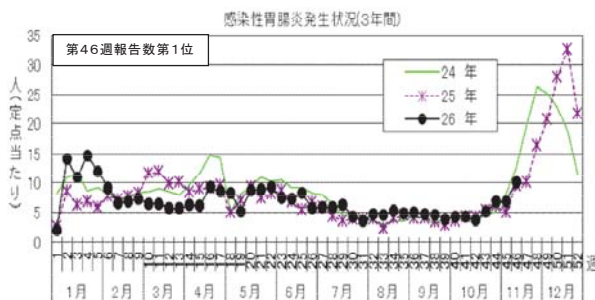
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



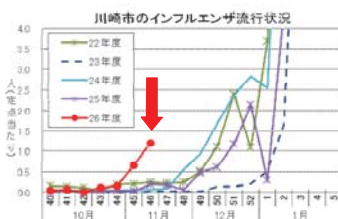
平成26年11月10日(月)～平成26年11月16日(日)【平成26年第46週】の感染症発生状況

第46週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)インフルエンザでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は10.21人と前週(6.85)から増加しましたが、例年とほぼ同じレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.64人と前週(1.61)から増加し、例年より高いレベルで推移しています。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は1.20人と前週(0.65)から増加し、流行開始の目安である1.00人を上回りました。



「インフルエンザ」と「感染性胃腸炎」に要注意！！

インフルエンザ

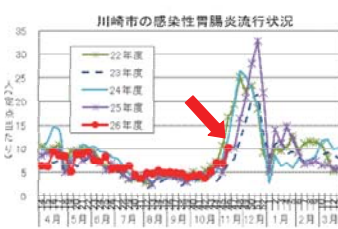


インフルエンザの定点当たり患者報告数が1.20人となり、流行開始の目安である1.00人を上回りました。**今年もインフルエンザの流行シーズンに入った**と考えられます。



例年と比べて、今年**は1か月程度早く流行シーズンに入りました。**まだワクチンを受けていない方は、お早めにご検討ください。

感染性胃腸炎



感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数が10.21人と前週から大幅に増加しました。特に**高津区は20.00人と患者報告数が多く**、国の定める流行発生警報基準値に達しています。

平成26年11月17日、神奈川県内に「**ノロウイルス*食中毒警戒情報**」が発令されました。

*ノロウイルスは感染性胃腸炎の原因ウイルスです。



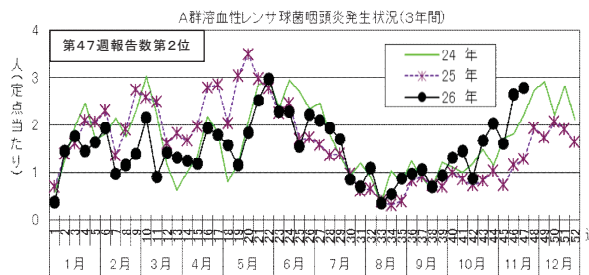
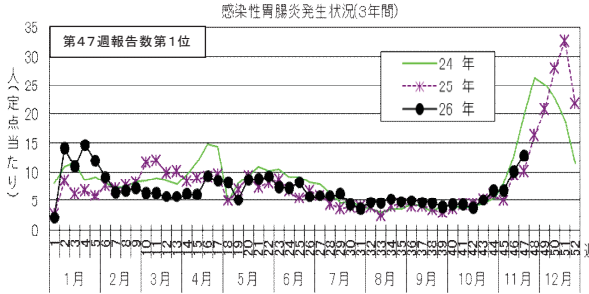
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年11月17日(月)～平成26年11月23日(日)【平成26年第47週】の感染症発生状況
 第47週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)インフルエンザでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は12.85人と前週(10.21)からやや増加はみられるものの、例年とほぼ同じレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.79人と前週(2.64)からほぼ横ばいで、例年とほぼ同じレベルで推移しています。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は2.78人と前週(1.20)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

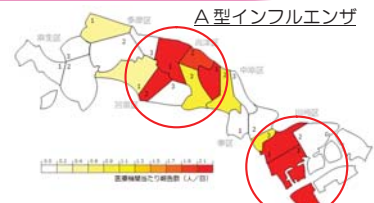
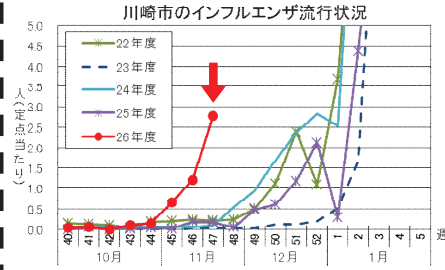


インフルエンザがさらに増加！！

11月以降、インフルエンザの患者報告数が増加し続けており、例年より早く流行が始まっています。また、川崎市感染症情報発信システムのリアルタイムサーベイランスでも、特に川崎区と高津区において患者数が増加しています。なお、11月26日時点で、市内の小学校から学級閉鎖6件、学年閉鎖2件の報告がありました。



インフルエンザは、学校保健安全法において第二種感染症とされており、出席停止期間の基準は「発症後5日を経過し、かつ、解熱後2日(幼児は3日)を経過するまで。」です。ご自身のためにも、他の人にうつさないためにも、インフルエンザと診断された場合は自宅での休養をとりましょう。



川崎市感染症情報発信システム(KIDSS)リアルタイムサーベイランス公開情報(平成26年11月25日報告分) ※11月26日15:00時点
 URL: <https://kidss.city.kawasaki.jp/>

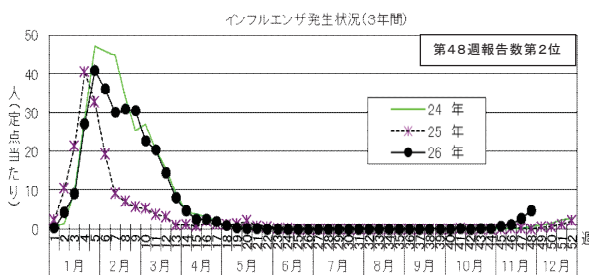
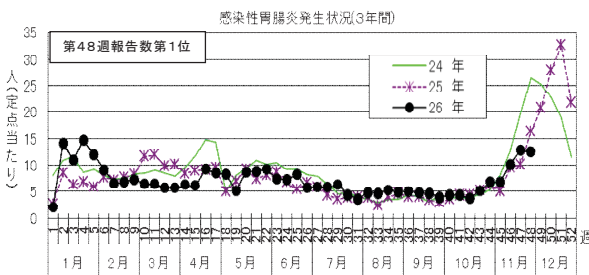
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)(問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年11月24日(月)～平成26年11月30日(日)【平成26年第48週】の感染症発生状況
 第48週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)インフルエンザ 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は12.52人と前週(12.85)からほぼ横ばいで、例年とほぼ同じレベルで推移しています。インフルエンザの定点当たり患者報告数は4.76人と前週(2.78)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.76人と前週(2.79)からほぼ横ばいで、例年とほぼ同じレベルで推移しています。



インフルエンザの勢い増す！！

全国的に、例年より1か月程早くインフルエンザの流行が開始していますが、川崎市においても11月上旬から患者報告数が増加しています。

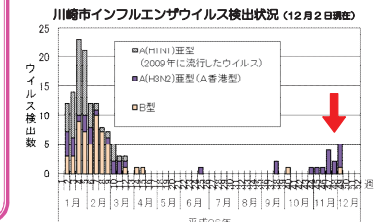
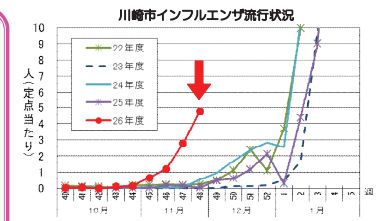
11月中旬から市内小学校で学級閉鎖等が報告されており、患者検体を健康安全研究所で検査したところ、検出されたウイルスは全て「A香港型」でした。

～毎年流行しているウイルスの種類は？～

インフルエンザウイルスは、A型、B型、C型に大きく分類されます。このうち大きな流行の原因となるのはA型とB型です。

ここ数年、国内で流行しているウイルスは、2009年に流行したA(H1N1)亜型、A(H3N2)亜型(いわゆるA香港型)、B型の3種類ですが、今シーズンはA(H3N2)亜型(いわゆるA香港型)の割合が多くなっています。

これら3種類のウイルスは、毎年世界中で流行を繰り返していますが、流行するウイルス型や亜型の割合は、国や地域で、また、その年ごとにも異なります。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)(問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年12月1日(月)～平成26年12月7日(日)【平成26年第49週】の感染症発生状況

第49週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)インフルエンザ 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は14.73人と前週(12.52)から増加しましたが、例年とほぼ同じレベルで推移しています。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は7.85人と前週(4.76)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.48人と前週(2.76)から増加し、例年より高いレベルで推移しています。



過去最多の報告数～RSウイルス感染症～

現在、全国的にRSウイルス感染症の患者報告数が増加していますが、川崎市においても第49週の定点当たり報告数が1.30人となり、平成15年のデータ収集開始以降、過去最多となりました。

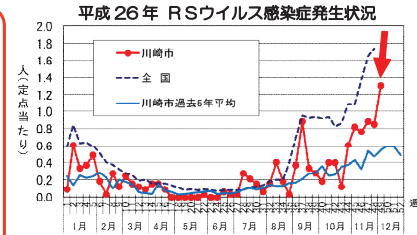
RSウイルス感染症の特徴は？

潜伏期間：2～8日(主に4～6日)

感染経路：咳や鼻水などによる飛沫・接触感染です。

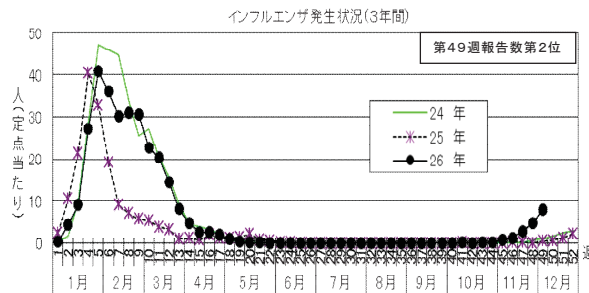
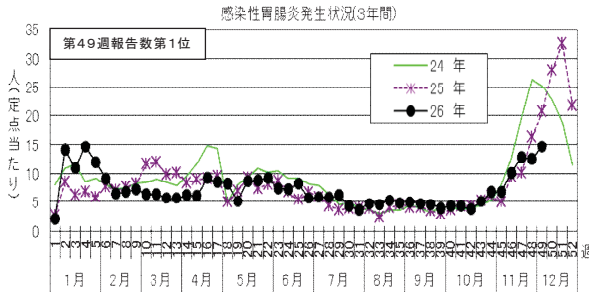
症状：発熱、鼻水などの症状が数日続きます。**発症の中心は0～1歳児**で、多くは軽症で済みますが、初感染乳幼児の約3割に喘鳴、呼吸困難などが出現し、肺炎や無呼吸発作などを発症することがあります。

その他：心疾患・肺疾患・免疫不全などの基礎疾患を有する小児、ダウン症の小児、生後3か月以内の乳児では、重症化するリスクが高いため注意が必要です。



RSウイルス感染症と気付かない年長児や成人が、0～1歳児にウイルスを感染させることがあります。
 飛沫感染対策としてマスクの着用を、接触感染対策として流水・石けんによる手洗いを徹底することが大切です。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年12月8日(月)～平成26年12月14日(日)【平成26年第50週】の感染症発生状況

第50週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)インフルエンザ 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は15.73人と前週(14.73)からほぼ横ばいで、例年とほぼ同じレベルで推移しています。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は13.37人と前週(7.85)から増加し、基準値(定点当たり10人)を超えたため、市内に流行発生注意報を発令しました。



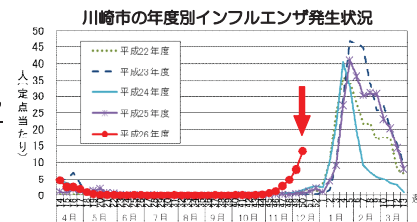
インフルエンザ流行発生注意報発令！！

川崎市において、第50週のインフルエンザ患者報告数が定点当たり13.37人となり、基準値(定点当たり10人)を超えたため、市内に流行発生注意報を発令しました。

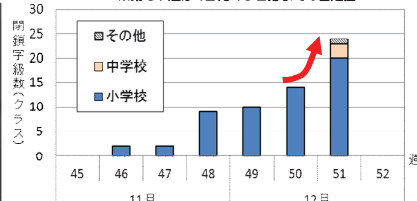
例年の動向をみると、今後さらに患者報告数が増えることが予測されますので、**手洗いや咳エチケット(マスクの着用)**等を徹底しましょう。



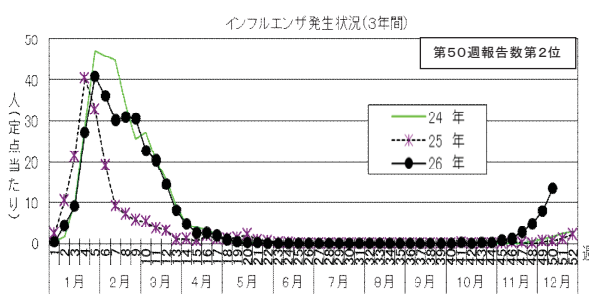
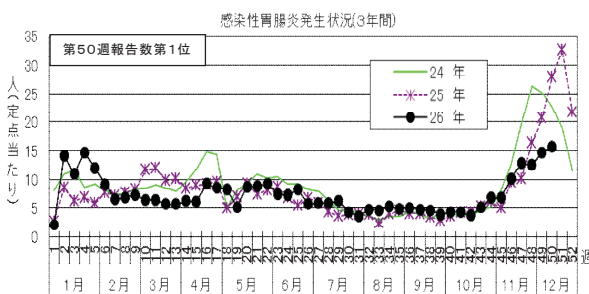
年齢別報告数では、小学生に相当するお子さんの割合が多く、学級閉鎖等も小学校を中心に報告されています。
 学校などの集団生活の場では感染がひろがりやすいため、特に日頃からの予防対策が重要です。



川崎市内の学校等における学級閉鎖等実施状況
 ※第51週は12月16日分までの認定値



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250



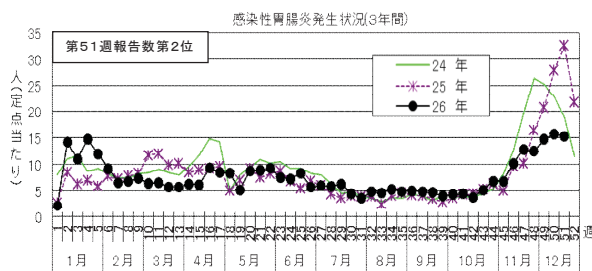
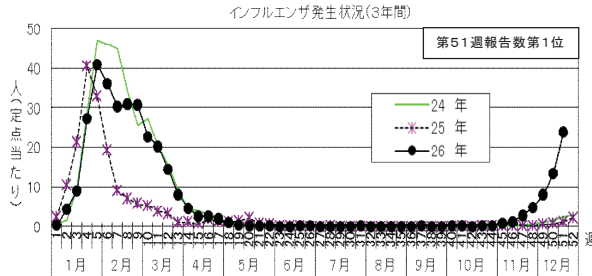
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年12月15日(月)～平成26年12月21日(日) [平成26年第51週] の感染症発生状況

第51週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は23.78人と前週(13.37)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は15.24人と前週(15.73)からほぼ横ばいで、例年とほぼ同じレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.33人と前週(2.79)からほぼ横ばいですが、例年より高いレベルで推移しています。



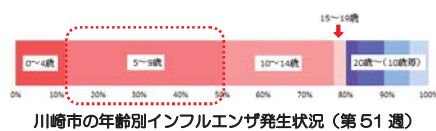
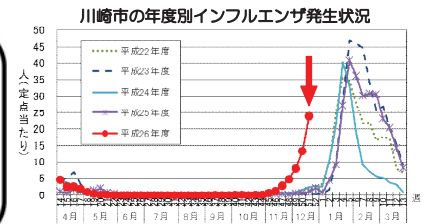
インフルエンザに要注意！！

川崎市では、第51週におけるインフルエンザの患者報告数が定点当たり23.78人と、流行発生警報基準値(定点当たり30人)に近づいています。なお、川崎区(定点当たり33.63人)と高津区(定点当たり32.63人)では、すでに警報基準値を超えています。

年齢別では、5～9歳の報告が最も多く、次いで10～14歳が多くなっています。小児の集団生活の場では、特に感染予防対策の徹底が重要です。

<感染予防のポイント>

- 手洗いの徹底
- マスクの着用
- ワクチン接種
- 適度な温度の保持
- バランスの取れた食事
- 不要な外出を控える



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

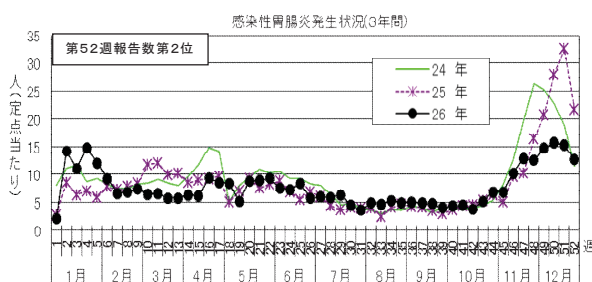
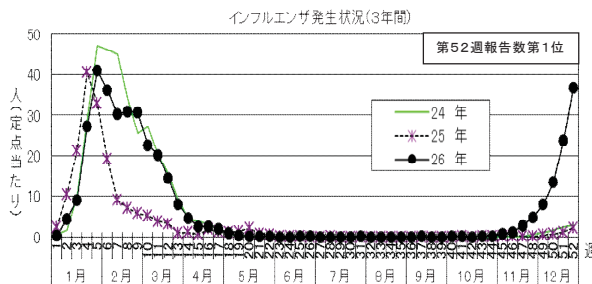
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年12月22日(月)～平成26年12月28日(日) [平成26年第52週] の感染症発生状況

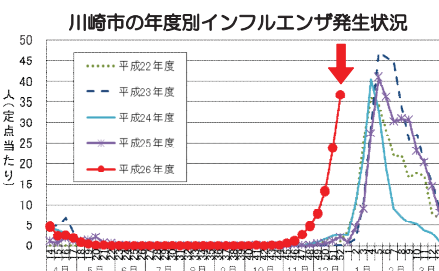
第52週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は36.70人と前週(23.78人)から増加し、基準値(定点当たり30人)を超えたため、市内に流行発生警報を発令しました。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は12.70人と前週(15.24人)から減少し、例年とほぼ同じレベルで推移しています。



インフルエンザ流行発生警報発令！！

川崎市において、平成26年第52週(平成26年12月22日～12月28日)のインフルエンザ患者報告数が定点当たり36.70人となり、基準値(定点当たり30人)を超えたため、市内に流行発生警報を発令しました。

平成27年第1週(平成26年12月29日～平成27年1月4日)は、年末年始で多くの医療機関が休診のため、患者報告数としては一時的に減少する可能性はあるものの、保育園・学校・職場等では、始業に伴いさらに感染が広がることが予測されるため、十分注意が必要です。



～インフルエンザにかかったら～

自分のからだを守り、他の人にうつさないようにしましょう。

- ✓ 安静にして、休養をとりましょう。特に、睡眠を十分にとりましょう。
- ✓ 無理をして学校や職場などに行かないようにしましょう。
- ✓ 咳・くしゃみなどの症状のある時は、マスクを着用しましょう。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

川崎市感染症情報センター事業報告書

2016年3月発行

川崎市健康安全研究所 感染症情報センター担当

〒210-0821

川崎市川崎区殿町3-25-13 川崎生命科学・環境研究センター2階

TEL 044-276-8641 FAX 044-288-2044

E-mail : 40eiken@city.kawasaki.jp



KAWASAKI CITY
川崎市